

クロベが主体の貴重な天然林

笠山クロベ希少個体群保護林

設定目的

笠山(一、五五三)にはクロベ(ネズコ)を主体とし、ウラジロモミヤカンバ類等が混交する天然林が見られます。

クロベを主体とする天然林は学術的に貴重であることから、保護林としてこの個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

当保護林は、飯縄山(一、九一七)の南西にある笠山の西斜面に位置しています。周辺は飯縄山の火山活動で放出された火砕岩が堆積し、あまり土壌が発達していませんが、その急斜面にクロベが群生している点が大きな特徴です。

将来は土壌が安定するにしたがい、コメツガが優占する群落へ遷移していくと考えられています。

所在地
長野県 長野市 戸隠豊岡



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

中部の保護林(第37回)